



# ヨーロッパの日本学

- 通覧 -

2009

フース・ハラルド (Harald Fuess)

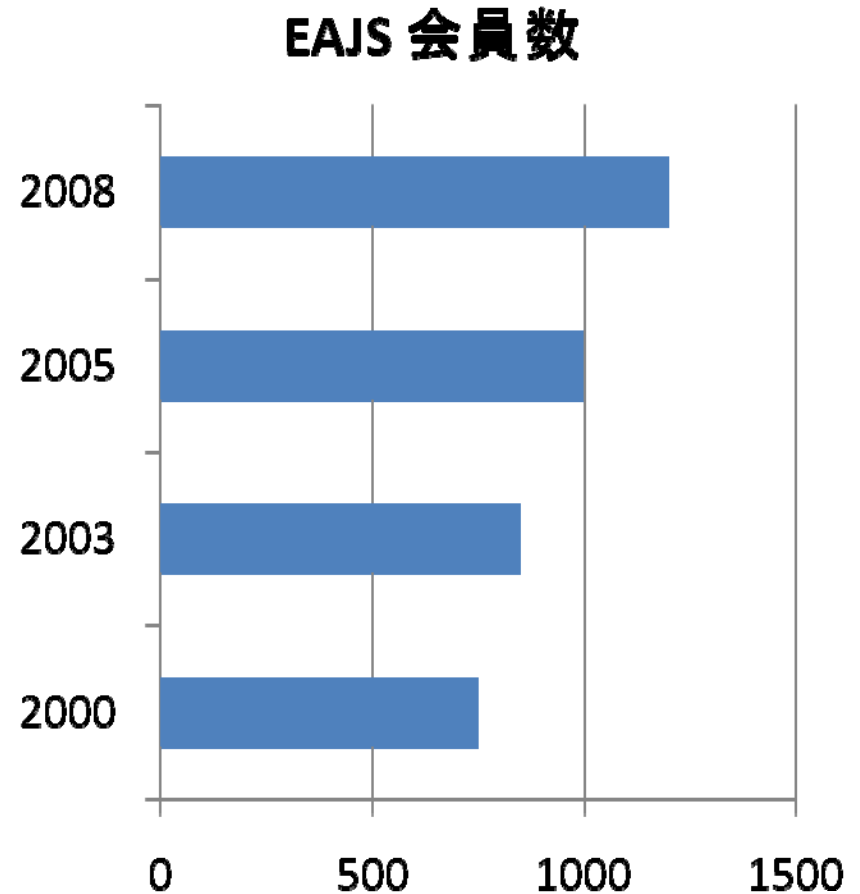
ハイデルベルグ大学「世界の中のアジアとヨーロッパCOE研究所」  
の文化経済史教授

ヨーロッパ日本研究協会 (EAJS) 理事会会長

# ヨーロッパの日本学

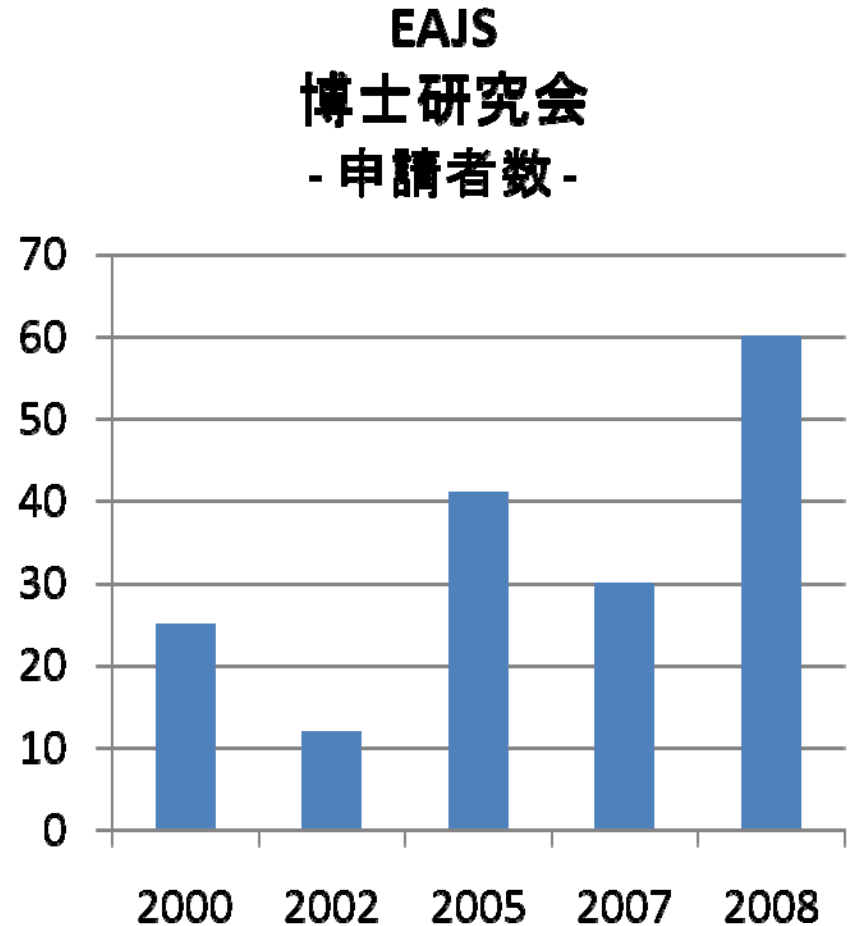
## 規模は大きく、成長を続ける

- ほとんどのヨーロッパ諸国は国レベルの組織を有し、定期的に会議も開催している。
- 日本研究ならびに日本語研修は全体的に安定的に推移している。
- 日本での研究や学生の研修を助成する基金も日本から、多くの場合、国から支援されている。
- EAJSは日本以外で世界一の規模を誇る日本学の組織である。



# 若いヨーロッパ人が望む より高レベルの日本研究

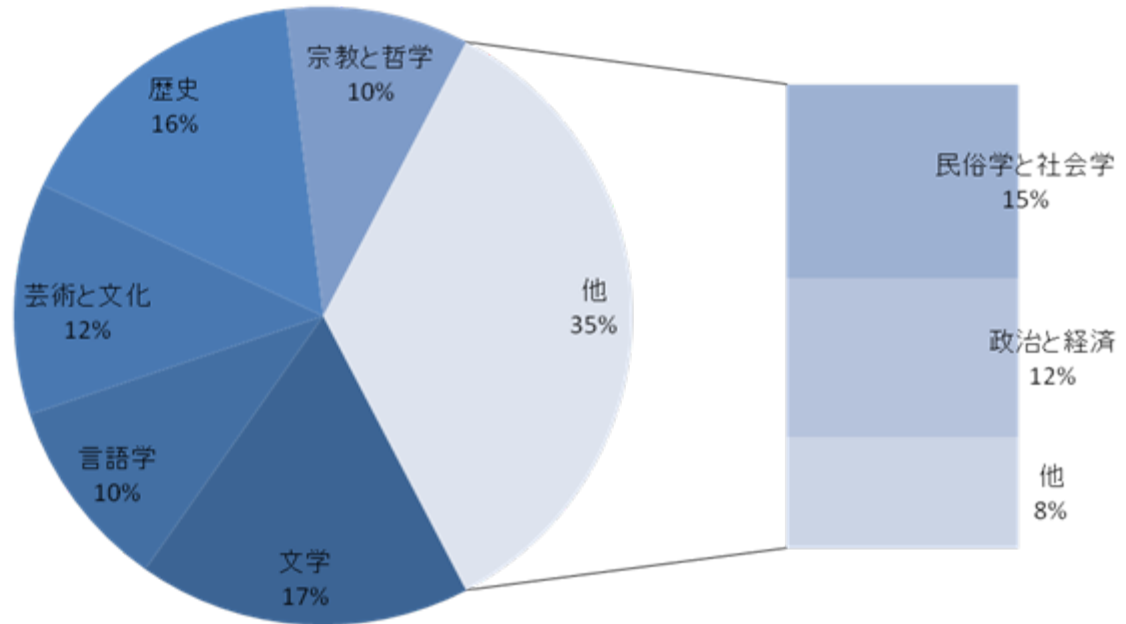
- 汎ヨーロッパEAJS 博士研究会への申請者数の上昇（年の申請者数は60人）
- EAJSが実施した、TIFO短期大学院生向け奨学金への申請者数の段階的な増加（2003年の7人から2009年の43）
- 日本における東欧諸国からの博士課程の学生の増加



# 人文科学が強く 社会科学も健闘

- 日本学は言語をベースとした地域学として組織されている
- 社会科学分野は「地域」より「学説」を重んじる
- 学生の日本に対する興味は経済から現代文化へと移行した
- イギリスと比較すると(ドイツを除く)ヨーロッパ大陸では、人文科学の傾倒が強い

EAJS 会員の主な専門分野 (%)



# ドイツ、イタリア、イギリス、フランス ヨーロッパの日本学の大国

ドイツ(8200万 EAJS 27%)

- **18の小、中規模の日本学科**
- 在東京ドイツ日本研究所

イタリア (6000万 EAJS 13%)

- **小規模の日本センター**
- 在京都

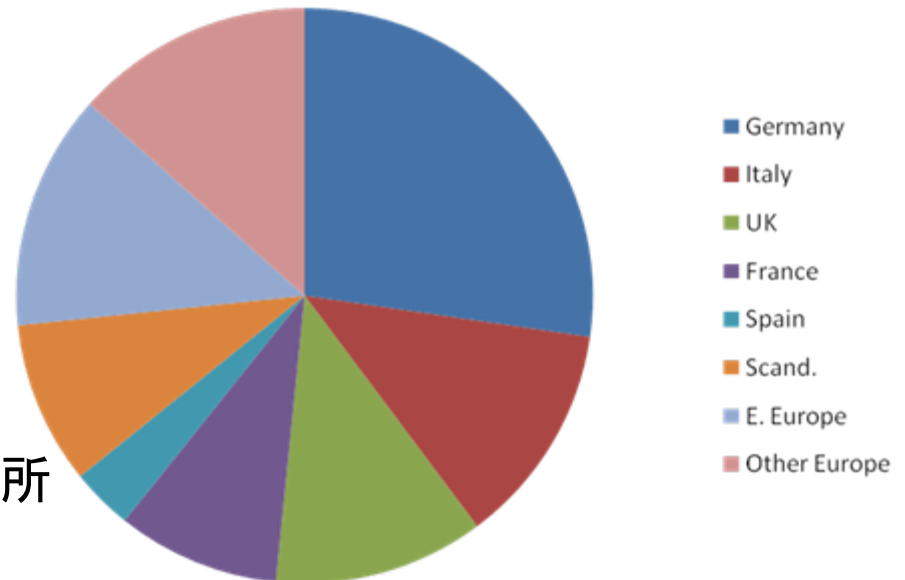
イギリス(6100万 EAJS 12%)

- **少数の大規模日本学センター**
- シェフィールド・リーズの国立研究所
- 教員のほとんどが非英国人
- 留学生の数が多く、特に博士課程では顕著level

フランス(6200万 EAJS 9%)

- **パリを拠点とした限られた大規模の日本学センター**
- 財団法人日仏会館

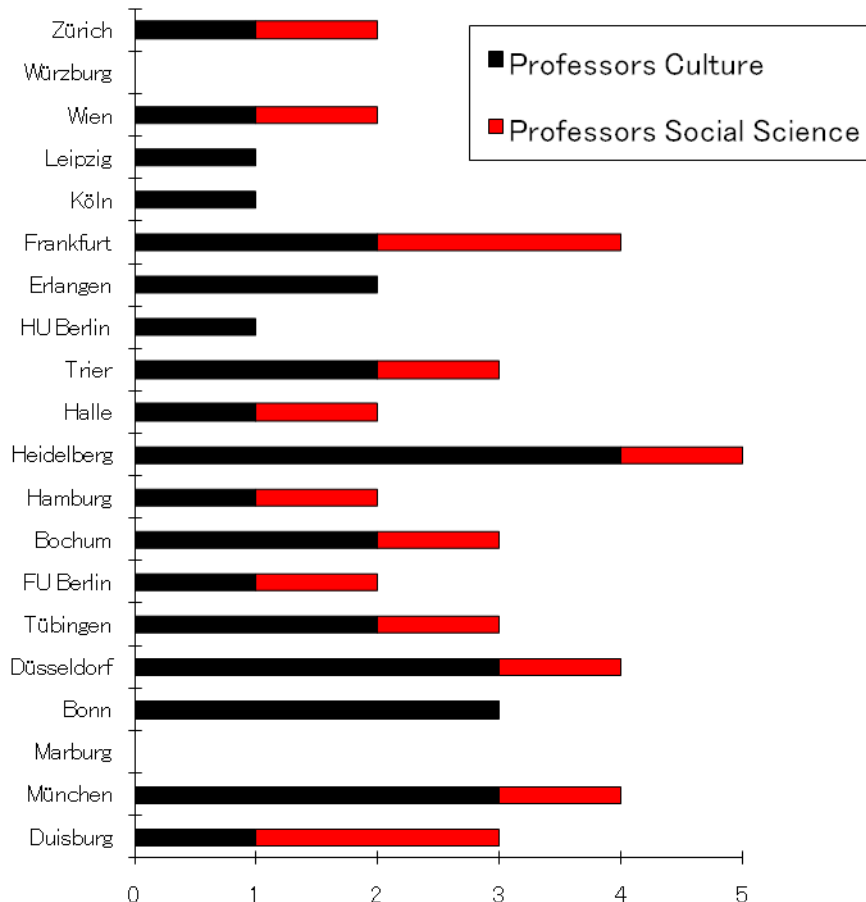
EAJS2008 欧州メンバー比率



# ドイツ語圏の日本学

## - 大学教授の数と専門分野 -

OVERVIEW 2009



### 過去五年間の動向

- 国の奨励のもと、少数化、大規模化の傾向が見られる
- 5つの大学で教授のポジションが増加された
- 2つの大学で日本学科が閉鎖された(マールブルク、ヴュルツブルク)
- 学部が大きいほど社会科学分野の教授数が多い

教授 = 専任で終身の日本学の教授の称号を持つ者

# イタリアの日本学

- 主な学課
  - Naples “Orientale” 1732年より中国学、日本学者数約8名
  - Rome “La Sapienza” 1961年より、日本学者数約9名
  - Venice “Ca’ Foscari” 1965年より、日本学者数約 8名
- 中規模学科(約1～4人の専任の日本学の学者)
- ボローニャ、フィレンツェ、レッツェ(Salento)、チュリン

## 日本語コース:

- Arezzo, Bergamo, Cagliari, Catania (Ragusa), Genova, Ibla, Milan, Novellara, Pavia, Pisa, Ravenna, Sassari, Urbino

日本学者 = *professore ordinario, professore associato*

# イギリスの日本学

## [The University of London/SOAS](#)

B.A. and M.A./Ph.D. in Japanese Studies. **日本学学者数14名** in SOAS Japan Research Centre. (6 Japan scholars in Japanese Studies department )

## [The University of Sheffield/National Institute of Japanese Studies \(White Rose\)](#)

B.A./M.A./Ph.D. degree in Japanese Studies since 1963. **日本学学者数12名** (WREAC 18 Japan scholars).

## [The University of Oxford](#)

B.A. degrees in Oriental Studies since 1963. **日本学学者数10名** MSc and MPhil in Modern Japanese.

## [The University of Cambridge](#)

B.A. degree in Japanese since 1963. M.A./Ph.D. **日本学学者数6名**

## [The University of Leeds/White National Institute of Japanese Studies \(White Rose\)](#)

B.A./M.A./Ph.D. degree programmes in Japanese. **日本学学者数5名** . (WREAC 18 Japan scholars).

## [The University of Manchester](#)

B.A. in Japanese Studies started 2007. **日本学学者数4名** .

## [Oxford Brookes University](#)

B.A. degree in Japanese Language and Contemporary Society. **日本学学者数3名** and many adjuncts.

## [Cardiff Business School](#)

B.A. in Japanese Studies since 1989. **日本学学者数3名**

## [The University of Edinburgh](#)

B.A in Japanese since 1990. **日本学学者数2名**

**Japan scholar** = *full-time faculty member who pursues research and teaching on Japan*

# フランスの日本学

- パリの大規模センター: INALCO, Paris 7、その他比較的小規模の学科がリヨン、リール、ストラスブールなどに点在
- 日本にある小規模の研究所: 財団法人日仏会館
- 人文科学分野に強い
- 日本との関係が深い
- 自給自足型?



# 他の地域

- ベネルクス諸国: ライデン、ルーバン、ヘント
- 東欧地域: ワルシャワ、クラクフ、プラハ、ブダペスト、タリン、モスクワ、サンクト・ペテルブルク
- 北欧地域: コペンハーゲン、オスロ、ルンド
- スペイン: マドリッド、バルセロナ

# 近年の動向1

## ボローニャ・プロセス (bologna process)

### ヨーロッパでの変化

- 大学は、BA(3・4年)MA(1・2年)コースに改革すべき
- ECTS = European Credit Point System ヨーロッパの大学のコースは振り替え可能にすべき
- 学費制度の導入と学費の引き上げ

### 日本学への影響

- 学士コースの期間が短い  
ため、転校が困難で留学も  
難しい。
- 修士コースの日本学の学  
生数が減少傾向にある。
- 修士と博士コースの共同  
学位 (joint degrees) も可能  
である。

# 近年の動向2

## 研究評価 (research evaluation)

### ヨーロッパにおける変化

- 政府の助成金の減少
- 教員の雇用、収入、昇進に変化の兆しがみられる。
- 自然科学、医学、社会科学分野の共同研究と出版方法が人文科学の模範として推奨されている。

### 例

- イギリスの Research Assessment Exercise (RAE)
- ドイツの Exzellenzinitiative
- ピア・レビューによる専門誌
- 雑誌の評価制度、例えば “ISI impact factors” と ヨーロッパ科学財団 (ESF) ERIH リスト “Oriental and African Studies” によるランキング

# 近年の動向3

## 発表言語 (publication language)

- 社会科学と人文科学を対比した観点からすると、言語は単に情報を提示する手段だけには収まらない。
- 英語を国際的な学術言語として推進する一般的傾向 (DIJでの言語の変換に対する強い反対運動)
- 研究対象である日本で使用されている言葉、すなわち日本語で発表することで正しく評価されるかという懸念

# 日本学と他の地域学

## 共通点

- 組織的に日本学は大学内に東洋学科かアジア学研究所か他の地域を研究する地域分野に含まれている
- 外国語の習得が必須な分野であるため、専門分野の学習に費やす時間の比率が比較的少ない
- 研究対象地域までの移動に多くの時間と経費を要する
- 研究結果を自国での議論に貢献させる、あるいはそれと比較させる

## 相違点

- ヨーロッパの日本学は、ヨーロッパとしても、国のレベルにおいても、アメリカとは異なり、地域学として運営されていない。
- 研究課題も地域ごとに選ばれ、例えば、日本と中国など地域をまたぐ共同研究は稀。

# (ヨーロッパ) 日本学への提案

- 1) ヨーロッパの主要な学問分野にもっと日本学の視点を取り入れる
- 2) ヨーロッパの視点を含めた英語によるピア・レビュー専門誌と、各言語によるピア・レビュー専門誌を作る
- 3) ヨーロッパの日本学者はもっと自分の研究の結果を日本語で発表・出版する
- 4) ヨーロッパと日本の大学間の協力でより多くの共同学位 (joint degrees) を創出する
- 5) 修士・博士論文の研究に、国枠のない、ヨーロッパレベルの短期間【3ヶ月】奨学金を増やす。
- 6) 日本学の海外COE創設は必要か。

# Recommendation

## for European Japanese Studies

- 1) Better integration with “mainstream” subjects in their respective European countries
- 2) Introduction of peer-reviewed journals across Europe in many national languages plus high-profile “European” English-language journals
- 3) Encourage European scholars to publish more in Japanese
- 4) Joint degrees in between European and Japanese universities
- 5) More short-term dissertation research scholarships for graduate students to go to Japan
- 6) Possibility of Japanese Studies COEs in Europe?